

年間第 14 主日

わたしのもとに来なさい

マタイ福音書 11 章 25-30

そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

<疲れた者、重荷を負う者>

「疲れた人、重荷を負う人」は今も昔も、日本であろうが世界中どこでも、生きて暮らしている人間のことをいっているように思えます。いや、わたしは元気一杯です。疲れなんて知りません、っていう方もいないことはないでしょうが、たいていの人は疲れていて、重い荷物をしょっているのではないのでしょうか。おおむかしの人類が生まれその歴史が始まって以来、ナザレのイエスの口からこのことばを直接聞いた人は多くはないでしょうが、いまここに集っているわたしたちは聖書をとおしてこのみことばを聞くことができることは大きな慰めです。

<わたしのもとに来なさい>

だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。 11:28

この「わたしのもと」とはイエスのいる場所とか、イエスの現れる時間とかを指しているわけではないでしょう。ナザレのイエスは「ポンテオ・ピラト

のもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちからよみがえり、天に昇られました」イエスは天におられます。

じゃあいったい「わたしのもと」とはどこでしょう？

二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。

マタイ 18:20

わたしたちがいま集っているここにイエスはいらっしゃる、聖書はこのように教えています。いま礼拝のために集っているこの場所が「わたしのもと」であり「休ませてあげよう」とイエスが招いているところです。

<安らぎを得られる>

わたしの轡を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。

11:29

休み、安らぎ、似ているようですがイエスはこれを使い分けて説いているようです。休む方は「わたしのもと」に行けばいいだけですが、「安らぎ」のほうには注文がついています。それは「わたしの轡」「わたしに学べ」の二つです。

イエスの轡とはなんでしょう？もちろん十字架に違いはないのですが、この轡はとてモわたしたちに担えるものではありません。きょうのテキストのすこし前にはこうあります。

目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。わたしにつまずかない人は幸いである。 11:5-6

イエスのガリラヤ伝道は人々の病を癒し、貧しい人に福音を告げることでした。この行いに対してファリサイ派や律法学者たちはイエスを攻撃し、癒された人たち、貧しい人たちはイエスを称賛しました。

ひらたい言い方をすれば、ファリサイ派の人たちはイエスの業をインチキ、手品の類と見て、神への冒瀆としたのに対して、貧しい人たちはイエスを病気を直し、福音を告げる、預言者、救い主、メシアとして迎え入れたという

ことです。両者いずれもイエスは神からの人と見ているのですが、ファリサイ派は否定し、貧しい人たちは肯定しました。

<わたしの軛>

わたしの軛を負い、わたしに学べ、イエスはこの二つを条件に「安らぎ」を保証しました。このことは詳しく考えていかなければいけない大切なことなのですが、その前にわたしたちにはすることがあります。それは自分の軛のことです。イエスの軛ではなく、自分自身が背負い込んでいる軛をどうするかということです。

ところで、きょうのテキストはイエスの祈りで始まっています。

天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。11:25-26

ここでいっている「知恵ある者や賢い者」とはファリサイ派や律法学者であり、「幼子のような者」とは無知で無力な貧しい人たちのことです。このどちらの人たちもそれぞれに自分の軛を背負っています。一方の人はその軛をおろすことなく背負いっぱなしの人たちです。もう一方の幼子グループはどっこいしょと軛をおろしてイエスのもとにきて休んでいる人たちです。あーあしんどって重荷を下ろしてイエスのもとにきて休んでいる、憩いのひと時をもっている人たちです。イエスにつまずかないグループです。

さて、幼子グループは帰る時間になりました。荷物はどうする。また背負い込みますか。もちろん自分の荷物ですからどんなに重くても背負っていかなければ困ります。明日になれば自分の仕事が待っているからです。どんなに辛くてもそれをやらなければ生きていくことができない、家族を養うことができない。イエスはわたしの軛を負い、わたしに学べといっています。でも自分の軛に加えてイエスの軛を背負うことはとうていできません。できっこないでしょう。さてどうしましょう。

<天の父>

すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。 11:27

父とは神です。子とはイエスです。子が示そうと思う者とはイエスに従うもの、イエスの弟子であり、今風にはキリスト者、クリスチャンのことです。神からすべてを任されたイエスは神のことをよく知っています。そしてイエスが選ぶ者以外には神を知る者はいないといっています。神を知る者ならばイエスの軛を負い、イエスに学び、そして安らぎを得ることができる。これがきょうのイエスの福音です。

わたしたちは自分の軛をおろして、イエスの軛を負うことができます。イエスはそう約束しています。どうぞ重荷を降ろして、イエスの軛を背負って父を知る者となってください。

わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。 11:29-30
